

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第61回

会津大学の活動報告



程 子学
(会津大学副学長・グロー
バル推進本部長)

中国から9名、台湾から1名を招聘
「福島復興プログラム」を実施

①プログラムの概要

会津大学グローバル推進本部では、さくらサイエンスプランの支援を受け、平成27年8月31日(月)～9月8日(火)の9日間、中国・大連東軟信息学院より5名、太原理工大学より4名、台湾・淡江大学より1名の学生を招聘し、本学の学生5名と共に「福島復興支援プログラム」を実施しました。

このプログラムは「会津の魅力とデザイン思考の学習」「ICTを活用した復興支援」「被災地の現状理解」「ふくしまの魅力の創出」をテーマとし、会津を拠点に活動をしました。さらに、福島県内の中通りと南相馬市小高区にも訪れました。講義場所や講師陣は多種多様であり、パワフル且つハードなプログラムでした。

座学の講義会場となった会津大学先端ICTラボ(LICITA)や福島県立博物館(会津若松市)では「ICTを活用した復興支援」「復興の建築学、町の再建」等の復興に関する講義をはじめ、「最新のロボット動向」、「Mathematics and Design」「Wearable Computer」等のICT関連の講義や、ICTの技術を応用し、新しいサービスを創造するための手法を学ぶ「Design Thinking(デザイン思考)」の講義を行いました。

フィールドワークでは、会津若松市内で『若松城(鶴ヶ城)』などの歴史的建造物や、3Dプリンターやレーザーカッターをはじめ、ハードウェア作成やアプリ+ハードウェア開発ができる設備を備えたものづくり施設である『Fab蔵』の見学をしました。

5日目には南相馬市に移動し、東日本大震災の被災地のひとつである南相馬市小高区(避難指示解除準備区域)を訪れました。『小高ワーカースペース』は、小高区に帰還

プログラム

内容	
1日目	到着
2日目	移動、オリエンテーション、歓迎会
3日目	講義・ワークショップ(デザイン思考) 講義(教育のデザイン)・フィールドワーク(歴史と文化)
4日目	講義(復興・Robotics)、講義(教育のデザイン)・フィールドワーク(歴史と文化) 講義(数学とデザイン他)・フィールドワーク(ものづくり)
5日目	フィールドワーク(被災地視察・インタビュー)、講義(小高町の未来)
6日目	フィールドワーク(被災地視察・インタビュー)、講義(復興の建築学他)
7日目	講義(デザインメソッド発表手法)・ワークショップ、チームごとの発表、歓送会
8日目	修了式、移動
9日目	帰国

を検討している住民の暮らしを支えるビジネス創出を目指したコワーキングスペースです。ここでは、住民や来訪者の拠点づくりのためのオフィススペース設置や仮設スーパリーの開設準備等についての想いや経緯を聞きました。また、町内唯一の食堂『おだかのひるごはん』で働く方にお話を聞き、「この地区は、飲食店やコンビニが再開していないため昼食の調達が困難ですが、除染作業員や復旧作業に携わる方たちのために、温かい食事を提供したかった」という思いに触れました。また、地元産業の手仕事(織物)で再建を図る『浮舟の里』を訪ね、養蚕から製糸、そして織機で製品に仕上げるまでを見学しました。小高区の滞在は、立入りが許可されている昼間のみの限られた時間の中ではありますが、町の再建に努める現地の方々との交流ができました。

また、プログラム期間中は、講義で学んだデザイン思考を用いて、夕食後に(時には食事を取りながら)各チームに分かれその日の振り返りを行いました。

7日目には、フィールドワークや講義演習

等て得た知見をもとに、各チームがまとめた復興プランのプレゼンテーションを行いました。

②プログラムの成果

参加学生たちは、英語でコミュニケーションを取っているにも関わらず、すぐに打ち解け、疲れをみせることなく、楽しく有意義な時間を過ごしていました。

福島県は東日本大震災の被災地であり、学生たちはフィールドワークを通じて、「福島県では日常の生活が営まれていること」「復興に向けて多くの人が生き生きと活動していること」を感じ取ったようです。さらに、福島県の多様な魅力に触れ、学生から「Fukushima is beautiful!!!」との声が聞かれました。

プログラム期間中にチームに分かれてブレインストーミングなどの手法を用い

て意見交換を行い、プログラムのまとめとしてチームの復興プランをプレゼンしたことから、学生たちは自分の考えや意見を伝え、時に戦わせることにより、よりよいアイデアが生まれることを学びました。特に、ICTを活用するためには、その技術だけでなく、まずは関連なコミュニケーションが必要であることを学んだようです。プレゼンテーションではICTを活用した斬新なアイデアが多く、実際の復興の一助になればと思います。

③今後の展望

招聘学生は今回のプログラムを通し、日本そして福島に対し大変興味を持ったようです。本学は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、国際化を牽引する

グローバル大学として世界中の優秀な外国人留学生の受け入れを強化しています。

しかしながら、日本本県の福島県に会津大学があることを外国人学生にはあまり知られていないようです。今回、

復興プランのブレインストーミング



現地の方へのインタビューの様子



各チームに分かれてその日の振り返り



会津若松市内でのフィールドワーク

期待して架け橋になることを目指します。

その後、招聘学生が母国と日本との架け橋になることを目指します。